

みんなにやさしい交通プロジェクト

1

[何のために？]

ねらいや効果

化石燃料の使用による温室効果ガスや大気汚染物の排出など地球環境に負荷を多く与える交通手段に頼った日常生活を見直し、“みんなにやさしい交通” 手段を選択できるまちづくりをめざします。そのためには、ノーカーデーに象徴される車への依存度を少なくした社会の実現をめざします。



関連する環境指標 (詳細は資料編参照)

- 幹線道路の歩道整備率、
- リユース自転車貸し出しステーション数、
- 市民独自調査による宅地地区の二酸化窒素濃度平均値

2

[何をいつどのように？]

具体的な進め方

□ A : 市民主体・行政共働 / □ B : 行政主体・市民参加

21-25 年度 26-30 年度

1) 歩行者・自転車にとっての安全な歩車道について研究する

歩車道についての現地調査の実施、「安全マップ」の作成	A	●	●	●	●	●	●
市民・利用者を対象としたアンケートの実施	A	●	●	●	●	●	●
安全な歩車道整備についての研究と企画立案	A	●	●	●	●	●	●

2) 公共交通機関の利用増加について研究する

公共交通機関についての現地調査の実施	A	●	●	●	●	●	●
市民・利用者を対象としたアンケートの実施	A	●	●	●	●	●	●
公共交通機関の利用増加についての研究と企画立案	A	●	●	●	●	●	●

3) 車道や公共交通機関の研究成果を形にし検証する

市の整備方針に基づく歩車道の整備と公共交通機関の充実	B	●	●	●	●	●	●
定期的な二酸化窒素調査による環境面での効果の検証	A	●	●	●	●	●	●
ノーカーデーの試験的实施	B	●	●	●	●	●	●
みんなにやさしい交通基本計画の策定	B	●	●	●	●	●	●

4) 不要自転車のリユースと有効利用を進める

不要自転車のリユースと有効利用についての調査研究	A	●	●	●	●	●	●
リユース自転車貸し出しステーションの整備とPR	A	B	●	●	●	●	●

3

[どこで?]

実施場所

市内全域、モデル地区

4

[誰が誰と何を?]

取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
市（水と緑の課、環境課、防災安全課、まちづくり推進課、建設課）

市（行政）

みんなにやさしい交通
基本計画の策定と実施
市役所のノーカーデーの
試験的实施
取組主体への支援

市民団体

プロジェクトの推進

市民（滞在者等を含む）

各種調査への協力
みんなにやさしい交通
手段の選択

事業者

調査・活動への協力

教育機関

交通安全教育の推進
専門分野での協力

市職員

専門分野での支援

注) □：取組主体としての役割、○：関係者としての役割

5

[補足は?]

備考

2の具体的進め方の詳細案

歩車道の整備、公共交通機関の充実、自転車のリユース・有効利用は、単独の事業としても大きな社会的意義と環境への負荷を低減する効果を持つものであるが、相互の連携・利便性を高め、三者が有機的につながり機能することにより、単独では得られない大きな効果が期待できる。

<実施場所について>

- ・ 市内を大きく東西南北の4区域に大別し、区域ごとにモデル地区を選定する。
- ・ モデル地区は、歩車道の整備が立ち遅れている地区、歩行者・自転車の交通事故発生頻度の高い地区を優先的に選定する。

<必要な調査研究項目>

- (1) 歩行者・自転車の交通事故の発生頻度の高い道路の抽出
- (2) 各学区の通学路と(1)との重複箇所
- (3) くるりんばす等公共交通機関との機能的な連絡
- (4) くるりんばすの朝・タラッシュ時の地下鉄駅等への乗入れの検討
- (5) 駐輪場の設置場所と整備費用
- (6) 自転車のリユース方法の検討
- (7) ノーカーデーの実施方法の検討
- (8) 交差点での二酸化窒素調査の実施

